

## 平成26年度学校調査アンケート集計結果

調査対象: 本校生徒・保護者・教職員

実施日: 平成26年12月4日(木)

回答率: 生徒 790/820(96%) 保護者 593/820(73%) 教職員 64/68(94%)

\*昨年度はそれぞれ、94%・85%・91%

### 教職員・生徒・保護者の三者から見た各評価項目の集計結果

平成27年1月29日(木)学校評価委員会

#### はじめに

宮城県教育委員会で定めた「生徒・保護者共通アンケート(12→13項目)」を使用するようになって6年目になります。本校には部活動がなく、生徒会活動をボランティア活動として実施しているところから、部活動及び生徒会活動に関する質問については「フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディの効果」と「サークル活動・ボランティア活動の状況」に関する質問に差し替えて実施しています。

過去3年間の本校と県全体のアンケート結果を比較して、本校の課題を探りました。

#### 1[学習指導]

「生徒にとって(お子さんの)、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	80%	79%	86%	[肯定的割合]	【1年次 78% 2年次 78% 3年次 80%】	
H25:	78%	83%	89%	[肯定的割合]	77%	82%
H24:	96%	85%	87%	[肯定的割合]	73%	82%
H23:	88%	81%	83%	[肯定的割合]	72%	82%

《分析》県全体の平均値と比べ、もともと数値の高い項目です。昨年度から教職員の自己評価が大きく減少しています。これは授業力向上を目指す取り組みが本格化し、自分たちの授業を見つめ直し、改善に向かう途上にあることに起因すると思われます。昨年度来、秋に教科の授業を見学し合う授業公開週間を設定し、教科を超えてよりよい授業を求めています。また12月には統一的に個別授業評価アンケートを実施して個々に改善を図っていきます。生徒の学力伸長はもちろん、生徒・保護者の信頼を得て高校生活の基軸とするためにも、引き続き授業改善に努める覚悟です。

#### 2[生徒指導]

「生徒にとって(生徒に対して)挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	53%	52%	71%	[肯定的割合]	【1年次 53% 2年次 50% 3年次 54%】	
H25:	60%	61%	72%	[肯定的割合]	83%	84%
H24:	56%	55%	65%	[肯定的割合]	80%	83%
H23:	50%	50%	61%	[肯定的割合]	79%	83%

《分析》例年、県全体の平均との乖離が最も目立つ項目であり、本校の重点課題ととらえ、学校全体としてマナー指導に取り組んでいるところです。保護者の肯定的割合が過去に比べて増加・安定しているのにくらべ、教職員・生徒の肯定的割合が減少しました。より高いレベルを求める意識の表れととらえ、自由を標榜し校則も持たない学校であるからこそ、大人として当然身に付けるべきマナーを明示し、お互いに爽やかな学校生活が送れるよう指導します。

#### 3[進路指導]

「生徒にとって(お子さんの)進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	80%	80%	85%	[肯定的割合]	【1年次 76% 2年次 81% 3年次 83%】	
H25:	76%	86%	89%	[肯定的割合]	84%	83%

H24:	89%	87%	82%	[肯定的割合]	81%	82%
H23:	90%	85%	84%	[肯定的割合]	80%	82%

《分析》進学校としてより高い評価をめざしたいと考える項目です。三年前に発足した将来構想委員会において、宮城野高校の3年間を見通した指導プランを策定し、成果を検証しながら体系化を目指しています。今年度は例年より生徒の肯定的評価が低くなりました。[項目4]で尋ねている本校独自のキャリア教育と、進路指導部と各年次を中心とする進路指導は車の両輪です。指導プランの体系化を目指す中で、他校にない豊かな進路指導が実現できるように、分掌を超えた全校を上げての研究を続けます。

#### 4[総合的な学習の時間] \*校内での調査項目

「(生徒にとって)『フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディ』の授業は進路を考える上で役立つ」

教職員	生徒	保護者		(生徒年次別)	1年次	2年次	3年次
H26:	86%	80%	87%	[肯定的割合]	77%	81%	81%
H25:	80%	79%	89%	[肯定的割合]	86%	72%	78%
H24:	79%	81%	85%	[肯定的割合]	86%	74%	84%
H23:	80%	77%	87%	[肯定的割合]	82%	78%	72%

《分析》本校独自の調査項目です。教職員の肯定的評価が過去最高となりました。生徒は昨年より微増ですが、1年次の肯定的割合のポイントが低下し、2・3年次で増加しました。FT I のあり方に問題がある可能性があります。3年間の流れの整理が今後の検討課題です。将来につながる豊かな学力を身につけさせることをめざす、本校にとって大切な教育活動ですから、生徒自身が手応えを感じられるよう指導内容を求め、改善を重ねます。

#### 5[教育相談]

「生徒に対して(生徒にとって)教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています」

教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	77%	72%	86%	[肯定的割合]	【1年次 74% 2年次 68% 3年次 75%】	
H25:	91%	84%	90%	[肯定的割合]	79%	82%
H24:	93%	82%	86%	[肯定的割合]	77%	82%
H23:	96%	83%	86%	[肯定的割合]	76%	82%

《分析》今年度教職員・生徒の肯定的割合が大きく減少しました。東日本大震災後の緊急支援の予算枠を使って、スクールカウンセラーの相談時間の枠を拡張していますが、今後生徒が安心して学校生活を送れるよう、教職員・カウンセラーが一丸となって対応を協議し、相談体制の改善を図ります。相談件数自体は今年度はやや減少しました。

#### 6[サークル・ボランティア活動] \*校内での調査項目

「学校として、サークル活動や校内ボランティアは活発に行われている」

教職員	生徒	保護者			1年次	2年次	3年次
H26:	53%	75%	75%	[肯定的割合]	【1年次 75% 2年次 73% 3年次 78%】		
H25:	62%	82%	79%	[肯定的割合]			
H24:	68%	80%	81%	[肯定的割合]			
H23:	67%	85%	79%	[肯定的割合]			

《分析》本校独自の調査項目です。例年と比べ、三者の肯定的割合がかなり減少しました。サークル活動の活性化は、本校を活性化するためには欠かせない課題です。今年度はサークルの活性化につながるように「サークル祭」という新たな試みも始めました。部活動に代わる放課後の自主的な活動としてスタートしたサークル活動の可能性について、生徒指導部を中心に改善を図ります。

#### 7[学校行事]

「自分にとって(お子さんにとって・生徒にとって)有意義な学校行事がある」

教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	83%	87%	89%	[肯定的割合]	【1年次 81% 2年次 87% 3年次 92%】	

H25:	87%	91%	92%	〔肯定的割合〕	82%	89%
H24:	87%	89%	92%	〔肯定的割合〕	80%	88%
H23:	93%	87%	90%	〔肯定的割合〕	77%	86%

《分析》肯定的割合が高い項目ですが、今年度は肯定的割合が減少しました。体育的行事や文化的行事は、生徒の自主性・主体性を重んじ生徒を育てていく本校行事の柱となります。今後も校内ボランティアによる行事運営をより魅力のあるものにしていきます。

## 8〔特色ある学校づくり〕

「学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」

	教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	50%	52%	69%	〔肯定的割合〕	【1年次 55%	2年次 52%	3年次 51%】
H25:	69%	76%	86%	〔肯定的割合〕		73%	80%
H24:	56%	61%	64%	〔肯定的割合〕		71%	78%
H23:	46%	60%	61%	〔肯定的割合〕		67%	79%

《分析》例年は項目2「生徒指導」と並んで県平均に比べて肯定的割合が低い項目です。

昨年度は教職員・生徒の肯定的割合が急上昇したのですが、今年度は例年並みに戻り、生徒の肯定的割合はここ4年間で最低です。美術科ではさまざまな場面でその活躍をアピールし、県内外で高い評価を得ています。総合学科・普通科においても総合的な学習の時間やボランティア活動など、他の県立高校に負けない宮城野高校固有の特色づくりを意識し、地域社会や他校から承認される実績を重ねて、特色ある学校としてアピールして行きたいと考えています。

## 9〔防災教育〕

「生徒に対して(保護者・生徒に対して)、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

	教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	83%	85%	79%	〔肯定的割合〕	【1年次 81%	2年次 90%	3年次 89%】
H25:	82%	81%	80%	〔肯定的割合〕		84%	81%
H24:	89%	86%	76%	〔肯定的割合〕		80%	77%
H23:	87%	83%	65%	〔肯定的割合〕		77%	72%

《分析》台風による臨時休業の対応が問題となった事例を契機とし、緊急連絡等の改善を行っています。今年度も生徒・保護者からは高い割合の肯定的評価をいただきました。東日本大震災以降、県全体で防災対策に取り組んでいます。備蓄品の整備・防災計画の見直し等を引き続き強化するとともに、生徒・保護者へのアナウンスを徹底していきます。

## 10〔開かれた学校づくり〕

「保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている」

	教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	84%	86%	78%	〔肯定的割合〕	【1年次 84%	2年次 88%	3年次 83%】
H25:	71%	90%	82%	〔肯定的割合〕		84%	80%
H24:	87%	86%	78%	〔肯定的割合〕		82%	80%
H23:	87%	85%	76%	〔肯定的割合〕		80%	78%

《分析》生徒・保護者の肯定的割合はいずれも昨年度より減少しました。「学校からの通知が保護者の手まで届いていない」というご意見も、例年同様自由記述に複数見られました。公式ホームページの活用に加え、家庭に伝わる適切な情報提供について引き続き検討します。

## 11〔施設設備〕

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

	教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)	生徒	保護者
H26:	88%	92%	97%	〔肯定的割合〕	【1年次 91%	2年次 96%	3年次 89%】
H25:	93%	95%	95%	〔肯定的割合〕		74%	80%

H24:	94%	97%	95%	〔肯定的割合〕	70%	77%
H23:	96%	94%	95%	〔肯定的割合〕	68%	77%

《分析》本校は県内有数の施設設備を備えており、例年肯定的評価の割合がもっとも高い項目です。本校の魅力として今後とも環境整備に努めていきます。

### 12〔いじめ問題〕

「学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」

教職員	生徒	保護者		(生徒年次別)1年次	2年次	3年次	
H26:	78%	67%	56%	〔肯定的割合〕	65%	71%	66%

《分析》本校は例年いじめの事例は多くありませんが、SNS等の普及に伴い、生徒同士のトラブルも散見されるようになりました。各期ごとにいじめ調査を行いきめ細やかな把握をするとともに、日々のやり取りの中で生徒が安心した生活を送れるよう努めていきます。

### 13〔総合満足度〕

「自分にとって(お子さんの・生徒にとって)、学校生活は充実している」

教職員	生徒	保護者		(県全体の平均値)生徒	保護者	
H26:	84%	86%	88%	〔肯定的割合〕	【1年次 82% 2年次 86% 3年次 89%】	
H25:	82%	88%	92%	〔肯定的割合〕	82%	90%
H24:	90%	89%	92%	〔肯定的割合〕	80%	89%
H23:	90%	87%	90%	〔肯定的割合〕	78%	88%

《分析》「総合満足度」は学校評価におけるもっとも重要な項目です。県立高校全体平均値で、保護者の肯定的割合がもっとも高いのがこの項目です。学習指導・進路指導・生徒指導その他の各 부문で気になることがあっても、総合的には「子どもの高校生活は充実している」と感じている方が多いことが分かります。県全体でも平均値は徐々に上がっています。本校でも1年次から生徒・保護者の皆様の満足度がより高まっていくよう努力する所存です。

### 14〔家庭学習〕\*校内での調査項目。

「放課後の学習時間は、ほぼ毎日2時間以上である」

教職員	生徒	保護者		(生徒年次別)1年次	2年次	3年次	
H26:	36%	48%	43%	〔肯定的割合〕	26%	43%	89%
H25:	22%	47%	51%	〔肯定的割合〕	32%	37%	74%
H24:	35%	50%	55%	〔肯定的割合〕	29%	46%	74%
H23:	32%	50%	51%	〔肯定的割合〕	41%	38%	72%

《分析》今年度は教職員の肯定的割合が増加し、保護者の割合が減少しています。一昨年度来心配されている1年次の肯定的割合の低下が改善されておらず、来年度以降の流れが心配されます。年次集会などで指導してまいりましたが、家庭学習は学校での学びを支える土台です。年次では面談やホームでの調査を通して実態を把握し、各教科の課題を工夫するなど連携して指導に当たり、改善を図っています。

### 15〔シラバス〕 \*校内での調査項目。

「シラバスは学習に役立っている」

教職員	生徒		
H26:	53%	46%	〔肯定的割合〕
H25:	53%	52%	〔肯定的割合〕
H24:	58%	62%	〔肯定的割合〕

《分析》シラバス(授業計画書)の活用については、教職員の肯定的割合に比べ、生徒の割合の減少が目立ちます。授業に工夫・改善を加えているところですが、それと合わせてシラバスを有効活用したいと考えています。授業改善のひとつの大きな要素と考えて、引き続き努力してまいります。